（別紙3）

公表　児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス　ChouChou			
○保護者評価実施期間	令和8年　2月　2日	～	令和8年　2月　15日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	15	（回答者数）	14
○従業者評価実施期間	令和8年　2月　2日	～	令和8年　2月　15日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　2月　17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の敷地には限りがあるので、事業所に隣接している公共の公園を利用し、広々と療育プログラムが行える。	一日の療育サイクルに室外療育を取り入れ、児発と放デイとの療育環境を分け、それぞれに適した療育を提供する。	室外・室内の療育に、社会性のある一般ルールを取り入れ、SST向上を図る。
2	LSTの一環として、おやつ時に疑似通貨を使用した、買い物の疑似体験や、近くのコンビニを利用させていただき買い物の練習を行っている。	昼食時の買い物など、隣接している食品売り場へ、定期的にLSTを兼ねてトレーニングしている。	少し距離の離れたお店にも実際に買い物に行き、交通ルールを学びながらプログラム内容の向上を図る。
3	土日祝には多種多様な療育イベントを企画し、児童が楽しく療育プログラムに取り組めるように工夫をしている。	食育や創作イベント・外出支援など、それぞれにねらいを持たせ、かつ飽きずに楽しくお子さまが参加できる療育イベントを考えている。	土日祝日だけでなく、平日もプログラムを考えて療育的な活動を実施する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	天候次第で療育スペースの選択肢が狭まり、活動内容の選択肢が少なくなってしまう。	施設としての面積が少ない為に、空間を分けて活動に取り組むことが難しい。	室内をパーテーション等で空間を設け、児発と放デイとの空間的距離を保ちやすい環境設定を行う。
2	保護者の療育ニーズに適した専門的知識を持った職員【PT・OT・ST】の配置が無く、その分野の専門性に弱い。	職員の知識不足のために、保護者の療育ニーズに対して、職員が適切に専門的な療育知識やアドバイスをすることができていない。	社内研修・社外研修の他にケース会議等を実施し、療育の幅を広げ職員の知識や専門性を向上する。
3	お子さまの人との関りが事業所内のみとなることが多く感じる。	公園に地域の子どもたちがいても、積極的にお子さまから関わりを持ったり職員が仲介して関わりを持つことが少ない。	積極的に職員が仲介となり、公園を利用している地域の子どもたちや保護者との交流を図り、地域に根付いた福祉サービスを提供できるようにする。